

会 議 録

1 会議名

令和2年度第2回上越市食育推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 令和2年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理の確認について
(公開)
- (2) 第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の確認について（公開）
- (3) 令和3年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)（案）について（公開）
- (4) 第4次上越市食育推進計画策定に向けた意見交換（公開）

3 開催日時

令和3年2月8日（月）午後1時30分から3時15分

4 開催場所

上越市役所 401 会議室

5 傍聴人の数

1名

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：内山一晃、野口孝則、小林綾子、森山真紀、岩井文弘、栗間良子、佐々木亜子
星野詩子、松井和代、長井慎也、北川渚、大山仁、近藤直樹
- ・事務局：農政課：古澤課長、太田副課長、高橋係長、北山主任
健康づくり推進課：坂上上席保健師長、保育課：渡邊副課長、農村振興課：廣
田副課長、教育総務課：塚田副課長、学校教育課：小林副課長、社会教育課：
福山副課長、上越ものづくり振興センター：勝山副所長

7 発言の内容

(1) 開会

【農政課 高橋係長】

- ・本日の会議は、上越市食育推進会議規則の第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。なお、上越教育大学大学院の野口委員、上越教育大学食育サークルの北川委員はリモートでの出席。
- ・本日の会議は、リモートでの会議となることを委員から了承いただく。
- ・会議配布資料の確認。

(2) 会長挨拶

【野口会長】

- ・前回の会議の開催にあたり、私及び私の指導学生である上越教育大学の食育サークルの北川が、急遽会議を欠席することとなり、大変申し訳なかった。前日に、上越教育大学の学生に新型コロナウイルス感染の確認があり、オンラインでの参加も検討したが、何分急なことであったため、前回は欠席とさせていただいた。
- ・欠席した会議の中で、皆さんに会長にご推薦、ご承認いただき、本当に感謝申し上げます。
- ・今日の会議の中でも、何ヶ所か出てくると思うが、新型コロナウイルス感染対策があることによって食育がスムーズに進まないことが、今年度は多く見られたかと思う。
上越市内においても、その中で実施方法を検討すること、今までであれば、取り組んでいなかった、例えばこのようなオンラインのミーティングについても、今年、このように取り組めるようになってきていることも、私達の進歩かなと思う。
- ・国の「第4次食育推進基本計画」の方向性が出ているが、その中でも、新しい日常の中で、今の時代、これからの時代に、どのような形で食育が実践、展開できるかが検討されている。上越市においても、委員皆さんとともに、上越市民の皆さんのための食育のあり方について検討していきたいと思っている。

(3) 議事

① 令和2年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理の確認について

【農政課 高橋係長】

- ・上越市食育推進会議規則の規定により、会長が議長を務めることになっているため、野口会長より進行をお願いする。

【野口会長】

- ・次第の2議事(1) 令和2年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)の進捗管理の確認について、資料No.1と2を事務局より説明願いたい。

【農政課 太田副課長】

- ・資料No.1、2により説明(説明省略)

【野口会長】

- ・ただいまの説明について、質問があれば挙手願いたい。なければ、次の議事等とも重なるところもあるため、こちらの報告に関しては、先に進めさせていただきたい。

② 第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の確認について

【野口会長】

- ・次第の(2) 第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の確認について事務局から説明願いたい。

【農政課 太田副課長】

- ・資料No.3により説明(説明省略)

【野口会長】

- ・それではただいまの説明について、質問があれば挙手願いたい。
- ・私から確認させていただきたい。各小・中学校はもちろん保育の現場でも、高等学校も含めて、新型コロナウイルスの影響はかなりあったが、今ご説明いただいた資料No.3を見る限り、例えば基本方針3の2番「小学校における保護者や生産者と一緒に食に関する学習会等を実施している小学校の割合」、さらには基本方針4の2番「野菜や米づくりの農業体験を行っている小学校の数」、どちらも「全小学校で実施」と、昨年度と同様であるが、特に基本方針の3の方は、保護者や生産者と一緒にというところも含めて、全小学校において、本年度も実施できているということであるが、新型コロナウイルス対策をしながら、どのような工夫をして実施されているのか。実施するにあたって、何か苦労や困難な点があったかお伺いしたい。

【学校教育課 小林副課長】

- ・基本方針3の「保護者や生産者と一緒に食に関する学習会等を実施している割合」について、小学校における、保護者や生産者と一緒に行う食に関する学習では、野菜やお米を作っている。
- ・やはり教職員だけで対応できないことから、地域の方と一緒に、野菜やお米を作る活動を行った。5年生は自分たちでお米を作り、販売活動を行ったほか、作った野菜やお米を学校給食等に取り入れて対応する工夫をしている。
- ・直接困った点などは学校からは聞いていないが、毎年同じようにやっているが、少しずつ工夫を凝らしているのが各学校の状況である。

【野口会長】

- ・全小学校は例年通り、今年度も実施できたこと、そして先生方、また地域の方、保護者の方のご協力のもと、子供たちが充実した学びを得ていることがよく分かった。
- ・他にご質問はよろしいか。それでは議事を進めさせていただく。

③ 令和3年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）（案）について

【野口会長】

- ・次第の（3）令和3年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）（案）について、事務局から説明願いたい。

【農政課 太田副課長】

- ・資料No.4により説明（説明省略）

【野口会長】

- ・それではただいまの説明について、質問があれば挙手願いたい。特に質問がないようなので、議事を進めさせていただく。

④ 第4次上越市食育推進計画策定に向けた意見交換

【野口会長】

- ・次第の（4）第4次上越市食育推進計画策定に向けた意見交換について、資料はNo.5から8を事務局から説明願いたい。

【農政課 太田副課長】

- ・資料No.5から8により説明（説明省略）

【野口会長】

- ・ただいま事務局から説明があったとおり、国の計画の方向性は、資料のように案の段階で決定ではないが、この3月末に向けて国全体として計画が作られている最中でもある。
- ・国の全体計画がまだ決まっていない現時点において、方向性として、感染症対策も含め、オンラインやICTの活用という言葉も見えてきているところである。
- ・上越市においても、どのような方向性で、第4次計画の策定に向けて歩いていくか、委員皆さんとともに、多くの市民の意見も取り入れながら進めていきたいところでもある。本日この会議において、委員の皆さんから、今ご説明いただいた3つの視点で意見交換の時間を持たせていただきたい。

【岩井委員】

- ・先ほどの説明で、意見交換の前に一つだけ質問させていただきたい。指標のところ、上越市の小さな子供から17歳ぐらいの高校生までの虫歯の取組があった。国の目標値を大幅に上回る成果が挙げられているが、何か特別な取組をしているのか教えていただきたい。

【健康づくり推進課 坂上上席保健師長】

- ・当市では、以前からフッ素塗布、フッ素洗口が進んでおり、その効果もあって、虫歯のあるお子さんたちが少ない状況となっている。
- ・合わせて、定期的な歯科健診を実施しており、幼児期は、1歳からスタートし、1歳半、2歳、2歳半、3歳と半年に1回実施している。
- ・また保育園、学校となれば、年に2回は確実に歯科健診を実施しており、早期に虫歯が発見され、それが治療に結びつき、このような結果になっていると考えている。

【栗間委員】

- ・分からない点があり質問したい。「地域等で共食したいと思う人が共食する割合」と書かれているが、この「共食したいと思う人」とはどのような人のことを言うのか。

【農政課 北山主任】

- ・当市では、食育市民アンケートを実施しており、このアンケートの中でお聞きしている項目である。地域の方や職場などのコミュニティのメンバーと一緒に、ご飯などを食べる時間を持ちたい人という意味で、「共食したい人」という表現になっている。

【松井委員】

- ・私は一番必要だと思うのは、やはり子供のことである。早寝早起き、朝日を浴びて朝食を食べる。そのことが教育に繋がり、経済というところで、この子達は将来的には生産人口である。高齢化社会にあって、この若い世代はここで持ちこたえないと、この世の中が崩壊するのではないかと危機感を持っている。
- ・そこで、朝食を食べるように親をどう教育すればいいのか。朝食を自分で作って食べていくような子供を育てていけばいいのかと思うと、取り組み方が違ってくると思う。
- ・資料No.8で気になった点で、「朝食を欠食する市民の割合」で、全く食べない、あまり食べないとあるが、小学生で3.4%、中学生5.2%、若い世代の20歳から39歳で13.3%とある。この若い世代は、小学生の親であるとも感じられる。親も食べないし、子供も食べないということなのか。子供は食べたいが、親は起きてこないから朝食を食べられないこともあるかと思う。調査の中で、小学生には親は朝食を作ってくれるのかなどの聞き取りがあれば、その後の対策で、親に作ってもらえるよう、理解してもらえるようにできる。
- ・子供に直接、おにぎりであれば、鮭フレークでも海苔でも、きちんと食べていくことを呼び掛ける。あとブロッコリーか何かあれば、もう立派な朝食だと思うので、そこで対策が変わってくる。もしアンケートをするのであれば、そういった内容もあればいいと思う。

- ・今年、私がすごく困って、我が家で上越市に苦情を投げかけたところでもあるが、私の住んでいる三和区では、稲わらを焼くという行為が随分ある。そういったところに住んでいると、本当にお米はもう食べなくてもいいかなと思うくらい切ない思いをしている。
- ・こういった農業従事者に教育をする、稲わらを焼いてもいいのか、環境ホルモンはいろいろなところで駄目だと言われている中で、こういった点もしっかりしていかないと、これからの子供たちは、上越市に帰ってきて、自然豊かな中で、稲わらを焼いたにおいを嗅いで、上越市にいるのかと思っている。食育とちょっと違った点かもしれないが、今日はそんなところを一度考えていただきたいと思い、意見を述べに参ったところである。

【栗間委員】

- ・松井さんの意見に沿って、私は有田地区で食生活改善推進員をしている。8年前に有田地区のイベントで、朝ご飯をテーマにして参加した。その時は、朝ご飯の大切さを広く分かってもらうため、小学生でもできる和食・洋食の展示をした。
- ・今の時代はお母さんが忙しく、例えば、レタス、ゆで卵、ウインナー、ハムなどにパンや牛乳を添えれば子供でも簡単に朝食ができる。今の時代に沿って、子供たちが親に頼らず自分でできるような、食事体制に持って行って欲しいと考えている。

【野口会長】

- ・お二人の委員から発言があったが、それに対し、事務局から何かコメント等はあるか。

【農政課 北山主任】

- ・学校関係のアンケートは、学校教育課で実施しているため、改めて回答させていただくが、若い世代を対象としたアンケートは、朝食を食べる頻度を聞いており、どんな形で提供しているか、子供に対し朝食を作っているかなど、細かく掘り下げたアンケートは実施していない。

【学校教育課 小林副課長】

- ・学校のアンケートでは、やはり食べているかいないかという質問を行っている。来年度、おそらくライフスタイル調査をすると思う。学校の栄養士、養護教諭を始め実行委員会でアンケートの作成を行うため、この件についても検討を行っていききたいと思う。

【農政課 太田副課長】

- ・事務局から稲わらの件について、そもそも稲わらというか、農業から出たものについて、燃やすことは一応法律上では禁止されていないが、当課としては、稲わらについては、秋にすき込むことで土が肥えて、ある程度、気候変動にも強い土になることから、そういっ

たことを推奨し、これまでも農家の方には、燃やさないで、すき込んでいくなどの周知をしているところである。この件については、引き続き実施していく。

【野口会長】

- ・本日、事務局から、内山委員が勤務の都合上、退席されると事前に伺っている。よろしければ、今の時点において、内山委員から、今後の上越市の食育についてのご意見等をいただけたらと思う。

【内山委員】

- ・この後、仕事があるため、早めに退席させていただく。
今日の話聞いて、私の感想になるが、小学生や中学生は、やはり行政からのアクセスがいいのか、例えば虫歯などは、全般的に全国よりも少しいいのかなという感じはした。
- ・残念ながら、大人、さらには高齢者に関しては、まだまだ改善すべきところが多いのは正直なところで、その辺は、それぞれ大人になればなるほど、個人の考え方や人生感が違い強制はできないが、「こういうふうにとったらいいですよ」という啓発活動を、たくさんの事業の中で、今後も引き続き実施していただければいいと思う。
- ・あとは、食育推進計画の中で、地域の食材をなるべく使って給食を食べることや、地元で消費してもらうことがあったが、これは私の考えであるが、上越市は新潟県全般に言えることかもしれないが、内に籠る感じで、外にあまり発信力がない感じがする。もう少し上越市にはこんなおいしい食べ物があるとか、それを自慢するような形で発信すると、市民も「上越市にはこんなにいいものがあるんだ」、「自分たちもいっぱい食べよう」という気になるのではないか。無理に食べさせようという雰囲気を出さなくて、いいものがあることを紹介して、もしくは全国の皆さんに食べてもらう。他の地域のものを食べるのではなく、上越にはもっといいものがあるという発信ができればいいと思う。

【野口会長】

- ・大変貴重なご意見をいただいた。私は上越市外から来て、5年くらい経過したが、外から来た私としても上越地域にはおいしい食べ物がたくさんあり、農家の方々と知り合い、農園を見せていただき、この上越地域の食文化の豊かさを身にしみて感じている。
- ・もちろん、昔からこの土地に住んでおられる方々こそ、私以上に実感されていることとは思うが、今、内山委員からもご意見をいただいたように、やはり食育推進にあたり、地元の人たちが地元の食の文化や食材、地元の料理をもっと楽しんだり、味わったり、またそれを実感できる場があるのか、またそういう情報提供があるのか。中の人間のみならず、

こちらから外に向けて、もっと発信していけるような食育推進が、第4次計画においても改めてPRが必要なところかなと感じたところでもある。

- ・今のお話に関して、私もあるるん畑と連携しながら、おいしい野菜を広めていきたいと思っている。JAさんでは、この外に向けてのPRという意味では、どのような取組を行い、また今後行っていけそうかなど教えていただきたい。

【佐々木委員】

- ・資料を見ると、皆さん一所懸命していただいているが、食育計画であれば、生まれた時から亡くなるまで、それぞれの年代の方に分かるように、常に情報発信をしていただきたいということや、生活リズムの大切さにもつなげていただきたいということがある。
- ・資料No.6の真ん中の中段にある「食生活が自然の恩恵の上に立ち生産者の様々な活動に支えられていることの理解を深める上で、農林漁業体験は重要」の部分や、「学校給食に地場農産物を使用し、地域の自然や産業への理解を深め、食に関する感謝の念を育むことが重要」という部分に関して、例えば、学校給食だよりや学校給食時の放送で、もっと食材のことや生産者の声を取り上げてみてはどうかと考えた。
- ・あとは、自然、体験という部分では、子供は話を聞くというよりは、とにかく体験してもらうことが一番分かりやすいと思う。JAには、地域のお母さん方の団体である「女性部」があり、営農指導員という作物に詳しい職員がいる。あるるん畑では、例えば畑などに行けなければ、お店で今の旬を体験できる場があり、ご利用いただきたい。
- ・資料No.7の右側「3つの輪を支える食育の推進」の下の「食の輪」のところで、「学校給食における地場産物、国産食材の使用の推進」とあるが、やはり現実的には食べ物の値段ということがあるかと思う。畑作指導や営農指導員から作物を作る話を聞くと、本当に食べ物を作ることはデリケートで大変なことだと身に染みている。例えば、野菜で地元のものや他地域のものを比べた時に、同じものでも、地元のものの方が値段が高ければ、単に比べて高いということだけでなく、この高い理由を付けて知っていただく、また食べ物を作るにはいろいろな過程があることを、子供に知ってもらうことで、食への関心が生まれ、残さないうで食べることに繋がると思っている。

【岩井委員】

- ・今、新潟県の食べ物が非常においしいというお話があったが、私も県外の方に話を聞くと、食べ物は本当においしいと言っている。新潟県の食べ物が非常においしいということ、これからも認識すべきだと思う。

- ・私は、学校カウンセラーをしており、各学校を回って、子供の問題の相談にのっている。その時に、子供と一緒に食事をする時間がないとの相談を受ける。子供と一緒になかなかご飯を食べられないと言われる保護者の方が増えているような気がする。
- ・家族構成を考えると、核家族化しており、共働きで、両親の帰りが遅くなってしまふ。そして、子供はそこら辺にあるもの、冷蔵庫の中を覗いて、あるものを食べて、夕食の代わりにしてしまうという状況が結構増えているのではないかと思う。
- ・令和2年度の事業の評価があったが、「家族と一緒に食べる」ところの啓発活動が「△」になっていたが、是非この第4次計画においては、子供が家族と一緒に食べるという共食に力を入れていただきたい。そうすることによって、その場で家族の団らんが生まれ、子供も親も言いたいことが言え、ストレス発散にもなり、子供の問題が少なくなるのではないかと考えることから、次の計画の中には入れていただきたい。

【野口会長】

- ・私から付け加えておきたい。私は上越に来て、食べ物が美味しく太ってしまった。おいしい食べ物を食べたら太ってしまったと言うと、おいしい食べ物が悪者になってしまうが、おいしい食べ物が悪者ではなく、私自身が悪い生活をした。それは何かというと運動不足である。
- ・私は、上越市に来る前は関西にいたが、1日7千歩から1万歩を超えて歩くのが普通であった。上越市に来て万歩計見ると、平均2千歩を切る日がとても多い。勤務で仕事をしているにも関わらず、動くことが本当に少なくなった。職業は同じ大学の教員で、大学のキャンパスの広さは上越教育大学の方が以前の大学よりも広いにも関わらず、やはり車生活。少し運動しなくてはという気持ちはあるが、なかなか夜道の暗さや、寂しい風景が多い中では難しい。運動する楽しさ、健康づくりの観点も含めながら、ちょっと食育と離れてしまうかもしれないが、完全に切り離すわけではなく関係はしていると思う。やはり、健康的な体を維持しながら、美味しくご飯をいただきたい。
- ・先ほどの虫歯予防で、綺麗な口で美味しくご飯を食べる準備はできている上越の子供たちである。その延長線にある運動不足に関しても、実はとても重要な上越市ならではの課題、つまり東京や大阪のような都会と比べて、明らかに上越が不利というか、全国の地方社会は車社会で仕方がないところではあるが、もう少し運動するチャンスや機会を積極的に広げていくことも、食育と同時にしていかなければならない。これは運動づくり計画の方かもしれないが、食育の方にどれだけ入り込めるか分からないが、同時進行だと思っている。

- ・私もまさに家族団らんの場を作って欲しいということは、市内の小・中学校、また高校生に食育の話をする時に言っている。特に高校生に向けて私が伝えたいのは、次大学に行くとか社会人になるにあたって、上越市を出て一人暮らしをする機会が多い。その時に、いざ料理を作ろうとすると、スマートフォンやタブレットを見ながら作るが、なかなか美味しくくない。一人暮らしを始めて親元にいたことの幸せを実感できるわけだが、その時にこそ、食育が大事だと思っていて、そこに気づいて、後で高校生の時に、親から直接教えてもらえたはずなのに、教えてもらわずに一人暮らしをしてしまったという、後悔をさせたくないという気持ちが強く、高校生向けの食育に近年取り組んでいる。
- ・その話の延長で、家族それぞれが違う生活スタイル、生活時間になっている中で、一緒にいることができる時間が本当に少なくなっているという話は伺っている。これは、働き方改革の話でもあり、さらには、今年度はコロナのこともあったことから、ステイホーム、また、在宅勤務によって一緒にご飯を食べるチャンスは、今年度は増えたと思う。
- ・しかし、やはりコロナが落ち着いてきたら、在宅勤務をやめてしまう会社も多いと伺う。一方で、保護者の方々が努力していないかということそんなことはなくて、親が中学生、高校生を車で送迎している。単に保護者の送迎付きなのかと思っていたら、保護者からすると、その20分30分の車の中でのみ、そこが一番の親子水入らずに会話ができる場所であるという話を伺った。車社会ならではの親子の憩いの場が、車の中になっているという現実があるとすれば、本当にそのままでいいのか、働き方の中で、もうあと10分、15分、朝の時間を取れないだろうかとか、自宅に帰ってきた後に、せめて30分でもいいから、お風呂の前なのか後なのか、寝る直前なのか、どこかで団らんの場所が取れないか、食育推進の視点からすれば、一緒にご飯を食べることが、将来の一人暮らしのためにも、親から受け継ぐ料理の作り方、家庭の中で親から子に伝えていくことが、もっと上越市の中でも広がっていけばいいと感じる。

【小林委員】

- ・食育と言うと若い世代というところも考えられるが、国の第4次食育推進基本計画を見ると、食をめぐる現状で、高齢者も対象となっている。若い世代の欠食ややせ願望いうところもあるとは思いますが、高齢者の低栄養の問題も数値的なところで、結果、評価されていたと思うが、そのあたりも第4次計画では、対象として評価していくことも必要だと思う。
- ・コロナ感染の予防というところでは、食事を通して、健康な体づくりもすごく大事になってくる。バランスのいい食事を、若い世代から高齢者までの実践と評価の指標も、低栄養

であればBMI というところで、具体的な評価もできるといいのかなと、第3次計画と国の第4次計画を見て感じた。

【野口会長】

- ・大変貴重なご意見をいただいた。高齢者の低栄養対策は、地域の中で取り組まなければいけないことも多々あるかと思う。また、コロナ対策として免疫力を高めるためにも、食事や生活習慣全般で、元気な体づくりというのは、基本中の基本でもあることから、食育において、同様に情報を提供する、または何か取組として、いくつかこの第4次計画の中に書き込むことができたかと私自身も感じている。
- ・事務局から今の件に関してコメントがあればお願いしたい。

【農政課 太田副課長】

- ・ご意見として承り、計画に反映させていただきたい。

【星野委員】

- ・資料No.8「第3次計画の指標項目の比較」のところで、3つの項目「ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合」、「生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合」、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合」の直近値と目標値の差がかなりある。やはり生活習慣病予防や、重症化予防の中ではとても大事な項目だと思うが、この辺りを1年後、目標値までどう持っていくか何か具体的な施策があれば教えていただきたい。特に「ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合」は、資料No.3を見ると、平成29年度は70.2%とかなり高値で、平成30年度は43.3%と落ち込んでいる状況にあるが、原因はあるのか。

【農政課 北山主任】

- ・目標値の設定について説明させていただく。第3次計画策定時に現状値を把握するため食育市民アンケートを実施し、今後の方向性を目標値として定めたが、その際に全く同数値ではないが、国の第3次基本計画の目標値に合わせたところがあり、目標値として少し無理をしてしまっている項目も正直ある。
- ・第4次計画の目標設定については、実質的な数字を出していくのか、国の方向性に合わせ、上越市としてもその数値を目指すのかは今後検討していく事項である。委員の皆様からのご意見をいただき、事務局でも検討していきたい。

【星野委員】

- ・私は若い世代へのPRはすごく大事だと思っていて、ホームページはそこまでいかないと

見ることができないが、今は上越市からも LINE で情報が入ってきて、すぐに情報を得ることができる。そういったところに食育情報を入れることはできないか。

【農政課 北山主任】

- ・私どもも LINE を活用している。具体的な施策に関する情報は出していないが、月に 1 回、食育推進キャラクターが食育の情報を発信する日記があり、先日その日記を掲載した。LINE は本当に身近になり、上越市の公式ページの登録者数も増えているようである。そこもうまく使い、市民の食育実践のきっかけとしたい。ご意見としていただきたいと思う。

【野口会長】

- ・今ほど、星野委員の質問に対し事務局から回答があったが、第 3 次計画策定時を思い返してみると、第 3 次計画を策定する時に、上越市のデータが国のデータに比べて大きく外れている目標値を作った記憶がない。
- ・例えば、資料No.3 の 2 ページ目の「ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合」について、策定時は 63.9% で、2 年目の平成 29 年度は 70.2% できている。平成 28 年度の策定時には、目標値を 70% として作ったわけで、ちなみに国の目標値は 55% で、策定時において 63.9%、つまり国よりも「ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合」が高い上越市だからこそ、国は 55% 以上としているが、上越市としては 70% を目指し、翌年にはすでに 2 年目にして目標をクリアしていた。
- ・しかし、大事な点として、平成 30 年度、令和元年度で 43% となり、これは策定時、また 2 年目の平成 29 年度と比べても大きく違っている。アンケートの聞き方については、国も同じ聞き方で、上越市が変な聞き方をしているわけではないと思うが、アンケートの対象者が毎年変わる中で、その年の上越市の代表値としてアンケートの結果が出てくる。やはりこれぐらいの誤差があるのがアンケート調査で、意識調査の限界点でもある。
- ・一方、国の目標値及びそれに基づく新潟県の目標値もあったが、次の第 4 次計画策定に関わる皆さん私も含めて、その時に国と県の目標値が、今のように上越市の現状値よりも低い場合があり、国と県の目標値が、上越市の目標値として機能しない項目が幾つか出てくると思う。つまりそれぐらい、上越市は全国と比べても、また新潟県内、他の市町村と比べても、良好な数字を持っている自治体であることを、もっと市民の皆さんも実感していただきたい。もっと自信を持って、市民の皆さんが日々の食事、食生活が続けていかれたらいい。ただその上でも、改善点はある。改善の余地はあることから、もっと良い環境づくりをすることは可能だと思っている。

【野口会長】

- ・ほかにご意見はないか。それでは私も一委員として発言させていただきたい。
- ・まず一点目として、第3次計画はこれから最終評価をしていくわけだが、コロナの影響で、感染症対策がある中で、計画していたことが急遽できなくなったのが今年度であった。
- ・令和3年度においては、この状況が2年目になり、その時点で緊急事態宣言の有無は大きな影響としてあるが、例えば食育実践セミナーは今年度中止となったが、やる予定で今年度予算組みや年度計画の中に組み込んでいくのか、また、先ほど初めの報告の中で質問したが、コロナであっても小学校で取組ができたという話もある。
- ・コロナだからできないではなく、コロナの中でもできることを、着実に一步步工夫しながら進めていくのであれば、コロナ対策があると食育がスムーズにいかないという言葉も各地から聞こえてくる中で、どのようなやり方をすれば、調理実習が可能なのか、また何かイベントをやる時に、マニュアルがあるのか、最低限そのマニュアルに沿って行えば、食育の体験学習が可能になるのかなどがあると思う。
- ・各業界の皆様がガイドラインを作られた事例がある。上越市における食育実践、調理実習等、また収穫体験を含めて、昨年度まで実施していたものが今回できなかったからこそ、どういう形を整えればできるのかというガイドラインのようなものが策定されれば、皆さん実施方法が分かる。もちろん気をつけながらであるが、一つの指標を提示するのも、行政側からの一つの提案なのかなと思う。そうもしない限り、市内のNPO法人やボランティア団体の食育実践が広がらない、再開しづらいと思う。
- ・また、公民館をはじめとする調理実習の場を活用して、どうすれば調理実習が可能なのかというのも作っていただきたいのが私の要望である。
- ・二点目として、以前から思っていたところであるが、上越市食育推進計画及びアクションプランは、基本的に市役所の主導で、市の予算で、全て市役所の関係各部署が取り組んでいることを、市民である我々委員が確認をしていく形で進んでいる。市民の自主的な活動、取組それこそが上越市の食育の取組であるが、それらを計画の中に取り込んでいない。
- ・行政が書いたもの以外の、一般の人や高校生や大学生の取組、子供たちの取組、さらには、NPO法人やボランティア団体の取組、中山間地域においては、お弁当を作って地域に宅配をしているなどという取組があったりする。あれこそ、高齢者の低栄養対策の食育の最たるものであり、北陸農政局の賞を受賞しているような取組が上越市にはある。
- ・しかし、そういった全国の代表となれるような取組があることは、あまり上越市内で広報

されてない。またそれをお手本に、もっと周りの人たちが広げていく、または追いつけ追い越せと、他の地域もどんどんやっていくような取組となるためにも、市役所が PR するだけでも、「上越市はやっぱり食育が充実している」となるのではないかな。

- ・北陸農政局の「ディスカバー農山漁村の宝」というコンテストがあり、令和2年度の「農山漁村の宝」として、8地区2名が選定された。内容としては、強い農林水産業、さらに美しく活力ある農山漁村の実現に向けた地域の活性化に取り組んでいる人たちである。その10件の中に上越市の県立高田農業高校の食品科学科の皆さんが選定されている。ホームページをご覧ください、「ディスカバー農山漁村の宝」の北陸農政局のホームページを開くと、高田農業高校の取組が掲げられている。課題解決に向けて実践的な活動をし、その課題研究の授業の一環として地域の食材を生かした商品開発を実施し、上越市牧区の雪室にんじんを使用した洋菓子のレシピ開発やブランドイメージを提案。さらにドレッシングの開発販売。そこに大学と連携した商品開発や、専門家からの助言、さらに若い世代へのアピールを意識したロゴマーク、包装紙の作成など、まさに高校生の取組が全国的に取り上げられている。
- ・コロナの時代ではあるが、一つ一つの取組が大きく表彰されていることも含めて、やっぱり上越は、自慢のできるまち、また若い世代がこれだけ地域の食材に興味を持っているという地域でもある。これはつまり、子供の頃からの学校給食をはじめとした、地域食材の学びであったり、給食を食べることであったりの延長線の成果だと思っている。
- ・まとめると、市民参加型または市民主導の、上越市内の子供たち、大人、高齢者、地域住民の取組こそ、この食育推進の中に PR する材料として、報告というカリサーチなのか、それらも含めてうまく PR する、多くの取組を食育の取組という形で、もう少し盛り上げることは可能だと思う。
- ・つまり、市役所の予算や計画の中に入っていなくても行われている上越市内の食育こそ、もっと注目して集めていくことができたらいいいと思っている。そんなことを第4次計画の中に組み込むことができたらいいいと私個人的には思っている。

【野口会長】

- ・他に委員の皆様からのご発言はないか。もう少し時間があるようなので、私からもう一つだけ会議録に残るでしょうからコメントしておく。
- ・前回、私が欠席させていただいた第1回の食育推進会議資料と会議録を後日送っていただいた。その会議録の中に書かれていた委員皆様のご発言、それに対する事務局の回答の

中で、「検討する」という言葉が何ヶ所かあった。半年ぐらい経ったので、そこに関して、事務局からこの半年の間に、第1回の時にいただいた意見に基づく検討を行った進捗状況について、現状報告をいただきたい。

【農政課 太田副課長】

- ・会長からご質問のあった件について、内容を持ち合わせていないため、回答できないことをご了解いただきたい。

【野口会長】

- ・第1回の会議録はより細かく読ませていただいた。ぜひ、会議録の中に書かれていたことは市民向けにホームページ等で公表されているため、今後、事務局でよく検討していただき、「今後の施策に反映させていただきます」との記載があったことから、ご意見に対する検討結果を、この会議の場においてご報告いただきたい。
- ・以上をもって、本日の議事の進行を終了する。スムーズな議事の運営に当たり、ご協力いただいた委員の皆さんに感謝申し上げます。進行を事務局にお返しする。

【農政課 高橋係長】

- ・本日いただいたご意見は、市の食育推進に係る施策、第4次計画を策定する際に反映させていただく。今ほど会長からもご指摘のあった第1回会議の検討事項の回答についても、順次進めていきたい。

(4) その他

【農政課 高橋係長】

- ・次第の3「その他」について、委員の皆様から情報提供等があったらお願いしたい。
- ・以上で「令和2年度第2回上越市食育推進会議」を終了とする。

問合せ先

農林水産部農政課

TEL : 025-526-5111 (内線 1282)

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

その他 別添の会議資料も併せてご覧ください。